

灰色低地土での普通期水稻「ヒノヒカリ」におけるカリウムの適正な穂肥診断基準

水稻搾汁液によるリアルタイム診断

背景・目的

■水稻での穂肥の窒素は、葉色により施肥の加減がなされますが、カリウムについては葉色では判定できないため、適正なカリウム施肥についての簡易な診断方法が求められます。そこで、穂肥時期での水稻搾汁液によるリアルタイム診断技術を確立しました。

成果の内容

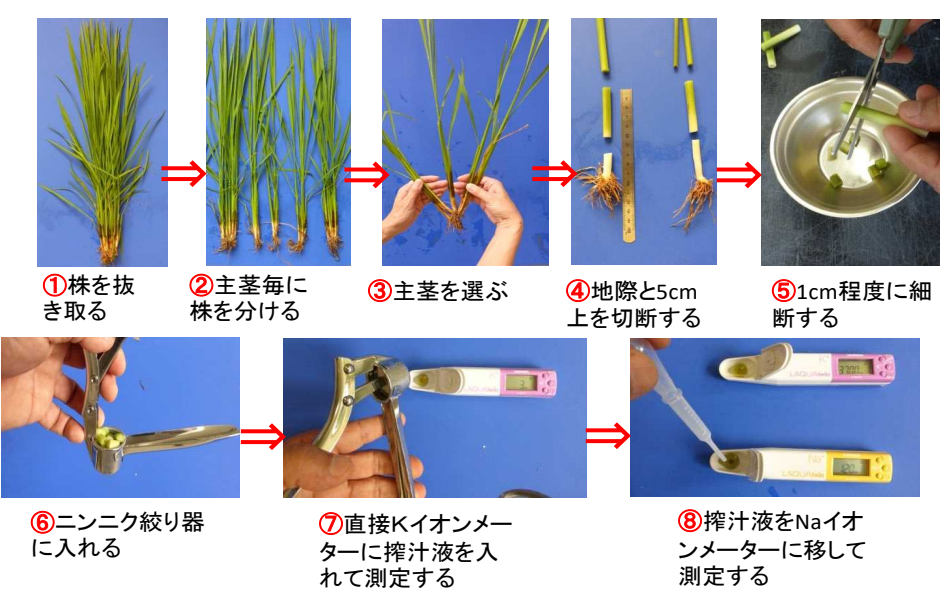


図1 搾汁液カリウムリアルタイム診断の手順

■以下の基準で穂肥は不要であることがわかりました。

表1 診断基準

ナトリウムイオン濃度 (ppm)	カリウムイオン／ナトリウムイオン濃度比
150以下	30以上

※コンパクトイオンメーターの読み値から

成果の活用方法(又は期待される効果)

■基準によりカリウムの穂肥が不要であった場合、窒素の穂肥のみとなるので、600円/10aの肥料費の削減が可能となります(肥料費の削減率は12.4%)。

表2 コスト低減

円/10a

	肥料費	うち穂肥代	コスト削減 (削減率)	備考
慣行区	4,845	913	-	穂肥はNK化成
カリ穂肥減肥区	4,245	313	-600(12.4%)	穂肥は硫安のみ

■普及対象地域・面積 本県ヒノヒカリの栽培面積約8,400haのうち灰色低地土のほ場

留意点

■コンパクトイオンメーターは、HORIBA製コンパクトイオンメーターLAQUAtwin (カリウム、ナトリウム)を使用しました。